

「地域と学校の協働活動の充実を図る研修会」事業報告

1 事業名 令和元年度 地域と学校の協働活動の充実を図る研修会

2 期 日 令和元年11月6日(水)

3 参加者 42名

4 日 程

時 程	内 容
13:30	受付
13:50	開会行事
14:00	研修1〈講義〉 中高生と社会人の対話による学びを創出する「三四郎の学校」の挑戦！ 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
14:30	研修2〈演習〉 相手を理解し、対話を深める「訊く」チカラを高める！ワークショップ 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
	「三四郎の学校」とは！ 平成25年から、みやこ町の公民館等を活用し、中高生と大人が対話を通して出逢い、自分、社会、未来について語り合い、考える地域の学び場を展開。 多くの社会人ボランティアの参加があり、異年齢集団による対話の場が実現している。 対話に必要な「訊く」ことの重要性を認識、実践できるワークショップを展開している。
16:10	振返り
16:30	
16:40	閉会行事

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、「中高生と社会人の対話による学びを創出する『三四郎の学校』の挑戦！」という演題で講義を実施しました。講義の中では、「三四郎の学校」における中高生の感想等が示され、子どもたちがしっかりと考えを持っている様子も説明されました。参加者からは子どもと対等に「対話」を行ってみたいとの声も聞かれ、「対話」の重要性について理解を深めることができました。

(2) 活動写真



講義を行う日賀事務局長



参加者の質問に答える日賀事務局長

(3) 参加者の声

- 正解や答えのないことを話し合いすることの大切さに気付くことができました。
- 対話について今まで考えていなかったことが、対話を通じて体験でき、とても勉強になりました。
- 「聞いていないように見えて、心で感じている子ども」を信じようとして信じきれない自分を振り返りました。
- 戦争の反対は「対話」と聞いた時に最初はよく分からなかったのですが、話し合っているうちはなぐり合いが起きないと言われた時にとっても納得できました。

研修2

(1) 内容

研修2では、「相手を理解し、対話を深める『訊く』チカラを高める！ワークショップ」と題して演習を実施しました。演習では、「子どもたちに必要な場所」をテーマに「対話」を積み重ねました。放課後子ども教室等の支援スタッフをはじめ、教育行政職員、放課後児童クラブの指導員、アンビシャス広場の支援スタッフの皆さんに「対話による学び」を実感してもらいつつ、ネットワークづくりの一助となりました。

(2) 活動写真



バースデーサークルでグループ分けを行う参加者



「対話」を行う参加者

(3) 参加者の声

- 「対話」は、話すことだと思っていましたが、訊くことの方が大切なのではないかと気がつきました。
- 「対話は自分を高める」と自分の中で考えていました。高めるというのはあやふやな表現でしたが、「更新」という表現がピッタリだと思いました。
- 役所の方、アンビシャスの方、他の学童の方と話ができ、情報共有できてとてもよかったです。
- 立場の違う方々と対話したことで、自分の考えも深まったと思います。

6 全体をとおして

本研修会は地域学校協働活動事業における支援スタッフ研修会として実施しました。

そこで学校や家庭、そして地域住民が連携・協働した、地域総がかりの「子育て」をしていくために、『相互理解』を深める『対話』について体験的に学んでいただこうと「訊く（尋ねる・問うこと）」をテーマに設定しました。

参加者からは「子どもの接し方をもう少し活発にしたい」、「子ども達の話をしっかり訊かなければと思った」という声があり、子どもとのかかわり方として、「対話」を重視する姿勢を養うことができた研修会となりました。